

器7 内臓機能代用器

高度管理医療機器

腹膜灌流用回路及び関連用具セット 70592000

JMS 腹膜灌流セット

再使用禁止

【警告】

- 各接合部を汚染させないこと。〔腹膜炎を発症する可能性があるため。〕

【禁忌・禁止】

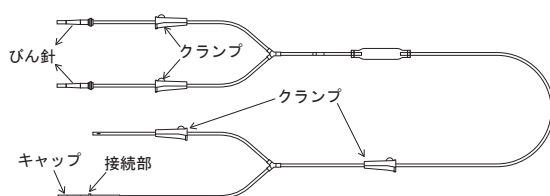
- 再使用禁止

【形状・構造等】

腹膜灌流用回路、腹膜灌流カテーテル及び排液用袋からなる。

<構成(代表例)>

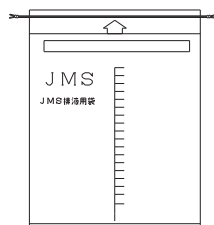
○腹膜灌流用回路



○腹膜灌流カテーテル



○排液用袋



- ・本品はポリ塩化ビニル(可塑剤:フタル酸ジ(2-エチルヘキシル))を使用している。
- ・上記構成と当該製品の構成が異なる場合がある。

【性能、使用目的、効能又は効果】

腹膜灌流法に用い、腹膜灌流液の腹腔内への注入及び腹腔内からの排出を行う。

*【操作方法又は使用方法等】

1. 前処置

- (1) 患者に食待ち、排尿、排便を行わせ、必要のある患者には鎮静剤を与えます。
- (2) 仰臥位、あるいは半仰臥位の姿勢をとらせ安静にさせます。

2. 腹膜灌流カテーテルの挿入

- (1) 中心臍下部3横指部の左右、及び左右前腸骨棘の内上方の部位を消毒します。
- (2) 局所麻酔を充分に行い、皮膚を小切開(約5mm)し腹膜穿刺針を使用して腹膜穿刺を行います。
- (3) ただちに腹膜灌流カテーテルをゆっくりとDouglas窩に向かって挿入します。この部位に腹膜灌流カテーテルが入ると、患者が肛門部に異物感を訴える場合があります。

- (4) 腹膜灌流カテーテルは上部100mmが残る程度に挿入します。

- (5) スタイレットを抜いてカテーテルを巾着縫合で固定し、漏失を防ぎます。

3. 腹膜灌流カテーテルと腹膜灌流用回路の接続

- (1) 腹膜灌流カテーテルを挿入固定後、ただちに腹膜灌流用回路の接続部のキャップを取り外し、カテーテルと接続します。
- (2) 腹膜灌流カテーテル挿入部位及び接続部が汚染されないように滅菌済みガーゼで覆います。

4. 薬液バッグとの接続

- (1) 腹膜灌流用回路のクランプを全て閉じます。
- (2) あらかじめ体温近く(約40℃)に温めた薬液バッグのゴム栓にびん針を垂直に穿刺します。

5. 注液及び貯留

- (1) 薬液バッグをハンガーにかけ、薬液側のクランプを開き、薬液を腹腔に注入します。
- (2) 注液終了後、開放したクランプを閉じます。

6. 排液

排液側のクランプを開き、排液用袋やその他の容器に腹腔内液を排出します。

使用方法に関連する使用上の注意

- 腹膜灌流カテーテル挿入部位及び接続部を滅菌済みガーゼで覆う際、カテーテルを折らないよう注意すること。*

*【使用上の注意】

1. 重要な基本的注意

- 本品の添付文書及び併用する医薬品の添付文書を確認後、使用すること。*
- 包装を開封したらすぐに使用すること。
- 包装が破損、汚損している場合や、製品に破損、変形等の異常が認められる場合は使用しないこと。
- 接続の際は、汚染しないよう十分に注意すること。
- 使用中、すべての接続部について外れ及び緩みがないことを確認すること。
- 患者及び器具の状態を常時監視すること。
- コネクタをアルコール等の有機溶剤で拭かないこと。〔コネクタにひび割れが生じる可能性がある。〕
- コネクタにひび割れが確認された場合は、ただちに新しい製品と交換すること。*
- 鉗子等でチューブをクランプする場合、チューブを傷つけないように注意すること。〔チューブの破損、液漏れが生じる可能性がある。〕*
- バッグ及びチューブを鋭利なもの等で傷つけないよう注意すること。〔液漏れ、エアの混入、破断が生じ、腹膜炎を発症する可能性がある。〕*

2. その他の注意

- 誤穿刺に注意すること。*
- 使用後は感染防止に配慮して安全な方法で処分すること。

【貯蔵・保管方法及び使用期間等】

1. 貯蔵・保管方法

- 水濡れに注意し、高温、多湿、直射日光を避けて保管すること。

2. 使用期限

- 使用期限は、箱の使用期限欄を参照すること。[自己認証（当社データ）により設定]

【包装】

10セット入／箱、70セット入／箱
（箱の入数表示を参照）

*【製造販売業者及び製造業者の名称及び住所等】

製造販売元及び製造元*

株式会社ジェイ・エム・エス

広島市中区加古町12番17号

郵便番号：730-8652

電話番号：082-243-5806